

令和8年度第1回豊山町DX推進本部会議議事録

1 開催日時

令和8年6月25日（木）午前9時30分から午前11時00分まで

2 開催場所

豊山町役場3階 会議室5

3 出席者

- (1) 推進本部長 副町長 安藤敏毅
推進副本部長 企画調整部長 早川憲二
推進本部員 総務部長 林真吾
 生活福祉部長 井上武
 産業建設部長 中川徹
 教育委員会事務局長 小塚和宣
 議会事務局長 小川徹也
- (2) 事務局 企画課長 熊沢 真吾
 デジタル化推進G長 鈴木 俊弘

4 議題

- (1) 豊山町DX推進計画（概要）について
- (2) DXをめぐる主な動きについて
- (3) 令和8年度のDX取組方針について
- (4) 「業務改善を目的としたDX研修」のアンケート結果について
- (5) 豊山町生成AIシステム利用ガイドライン第2版（案）について
- (6) フロントヤード改革ワーキンググループの階層別編成について

5 会議資料 資料1～6

6 会議内容

事務局が配付資料の確認を実施。その後の進行は本部長へ引き継がれた。

議題1 豊山町DX推進計画（概要）について

事務局から説明

質疑・意見

（本部員）資料1の組織体系図ワーキンググループの責任者がデジタル化推進グループになっている。過去は推進室だったので、今なら企画課にした方がいいかも知れない。

（事務局）修正します。

議題2 DXをめぐる主な動きについて

事務局より説明。

質疑・意見

(本部員) 前回の推進本部会議の中で住民情報システムの標準化移行は3月に作業が完了した。しかし、不具合が生じていると聞いていた。現在、全18業務で不具合が全て解消されたということでしょうか。

(事務局) 不具合については、報告の都度ベンダーに対応していただいています。今後、1年間を通じて業務をやっていく中で、今までとの違いの中で別の不具合が出てくる可能性はありますのでそういったものが出てき次第、ベンダーも交えて対応していこうというお話をさせていただいています。

(本部員) 標準化に移行したため経費が導入前に8倍になったという新聞記事を読んだ。豊山町の運用経費はどうなっているか？その記事の中では、経費は交付税措置されるようになっていた。豊山町は不交付団体なので完全持ち出しになっているのではないかと何か措置はされているのか？

(事務局) 標準化に伴って国からの運用経費の差額の2分の1が補助金として出るようになっていました。申請を出したところで、交付についてはまだ回答は来ていない状況です。令和8年度から10年度まで3年間は交付されます。

議題3 令和8年度のDX取組方針について

事務局より説明

質疑・意見

(本部員) 書かない窓口について、6月議会でいろんな議員が質問されていました。これまで議会では検討すると繰り返してきた経緯がある。資料を読むと書かない窓口の推進という当初の目標からずれてきていると思える。現在の検討状況はどうなっているか？

(事務局) 書かない窓口の推進の話につきましてはご指摘の通り、これまであまり進んでいないのが現状と認識しております。現実問題としてシステムを入れればそれで済む問題ではないと考えております。現在の状況を把握して、定量的なところと定性的な部分の観点から、我々がどこを目指すべきなのかというところをもう一度捉えなおす必要があると認識をしております。例えば定量的な考え方で待ち時間を減らすのか、職員の事務量をどこまで減らせばゴールといった設

定が今まで曖昧だったので、再度定義し直そうという今話し合いを進めているところです。

(本部員) 文書処理の見直しについて、財源の問題があって、予算要求で文書管理システムの導入を検討したが、予算要求を見送ったと聞いている。今年度は代替案を模索しますと資料には書いてある。その代替案とはどのようなものか？

(事務局) 文書処理の見直しにつきましてはこちらにつきましても、文書管理システムを入れるとどうなるのかという効果検証は進んでないところです。ペーパーレスの推進という点に関しては職員 PC の更新を 10 月にありますので、PC を小型化して、より会議などに持ち出しやすい環境にしていきたいと思っています。ただし、LAN ケーブルが接続必要ですので、来年度以降に Wi-Fi 環境を整えていきたいと考えております。

(本部長) 書かない窓口については全体の方向性を決めないといけないというのはその通りだと思う。できるかできないかは別として、最初に計画を作ったときの究極の将来的な方向性は役場に来なくても、行政手続きができるようなシステムだったと思う。最終的な方向性に向けて、それを段階的にどう落とし込んでくるのかなということなのかなということだと思う。それから文書管理も多分システムを入れたりすると、結構お金もかかったりしてなかなか大変だと思うので、例えば保存ルールを定めてみたり文書管理規程を見直す。そういった方向でも文書処理の見直しの一環になると思う。検討する部分があったら、単にシステムを導入するとかしないとかじゃなくてそういった方向も検討してほしい。

(本部員) タウンバスの話がありましたので今の状況を報告させていただきたい。あおい交通のクレジットカードとか IT 交通系 IC を利用したキャッシュレス決済の導入について、会社自体でも前向き検討されています。ただ実施にあたっては小牧、犬山、北名古屋、大口と各市町での全ての車両に一斉に導入したいという話です。車両が全部で 77 台あるらしい。差し当たって小牧の方がもう近々導入したいというふうにお話があるそうです。豊山町はどうか予算措置が必要ですので協議中です。ちなみに初期費用としては約 230 万円で、月額使用料が 2 万 2000 円です。この 2 万 2000 円は決済するクレジットカードの手数料とかです。初期費用も今現状 3 台稼働中で、車両が 3 台プラス予備車両で合計 4 台分を設置するということで、約 230 万ということでございます。この 230 万ですねこれが実際導入するにあたって初期費用のところで、単年度で精算になるのか償却で 5 年償却とか車両みたいな形でやっていくのかというその辺が打ち合わせの最中です。

(事務局) うちも一つ報告で文書管理システムです。費用が何千万円とかで1回見積書をとりましたが断念している状態です。総務部と教育委員会で文書が多くと悩みがあります。特に教育委員会は、教育事務所から本当に膨大に来ていて、職員が半日かけて印刷して焼いて、回していると聞いています。今、グループ長の間でいろいろ話をして、本当に全部印刷する必要があるのかも含めて、頭紙だけでよしとするとか、照会とかは別に対応するとか、何かそういうような取り組みをしようとしています。その実績ができれば、共有させていただきたいと思います。

(本部長) 昔は紙で本当に送られてきたけど、何でもメールで送ってきて、何でも印刷しちゃって調査票の様式も全部印刷しているそうですね。

(事務局) 今そこら辺も含めて我々もお話共有させていただいて聞いておりますので、何らかの形で制度化していくといいかなというふうには思います。

(本部長) メールで来たものを担当の方にメールでやりとりして、そこで入力して、またそれを保存しておいて報告すればいいという話になるけれど、紙ベースでいいのか、メールだけでいいのか、最初の振り分けがなかなか難しい。

(事務局) そういった部分も含めて学校教育と総務とも話をしています。先ほども総務部長からお話があったと思いますが、考えてことを活用してですね、全庁的な流れとして作っていききたいなと我々も思っております。

(本部長) そもそも会計年度職員にやらせるから判断できない。判断ができないから全部印刷していることがあるので、ちょっとその辺のチェック機能をちゃんと考えた方がいいよって話をしています。

(本部長) 国が書かない窓口、フロントヤード改革推進しようとして、最初に書かない窓口のイメージありましたよね。役所に来て、席につくと必要とする書類が全部出てくるみたいな話があったけど、あのイメージがあんまりよくわかんなくて結果的に転入手続きガイドでやっている。あれが例えば変な言い方ですけども、マイナンバーカードを使って、あとは何をセレクトすればいいか。本人に聞き取りしながら、聞き取り終わった段階で書類が出てくるという形になってくるのかなと思っていた。それが今、転入手続きガイドの本人にチェックをつけてもらうんだけど、それが将来的には、職員が該当項目を聞き取って入れるというような形で書かない窓口っていうことになると思う。丁寧に1ヶ所で短い時間で申請ができるよっていう体制の一方で、来ない窓口も進めていけた方がいいよね。

(事務局) 本部長のご指摘の通りで先ほど小川局長からもお話がありましたけれども、極論的には言うとも最終的には来なくてもできるのが全てだということもあります。フロントヤード改革のワーキンググループでもオンライン手続きの手続き拡大という話もさせていただいております。申請書を書かなきゃいけないものについてアンケートをとりますという形で話をさせていただきました。現状です。先ほどちょっと追加の説明がありましたけど180件ほどの申請書があると回答がありました。まだ一部回答が来てない部分もありますけど、そういった部分をデジタル化して、ネットからでも申請がまずできるようにするということがプラスアルファ窓口に来た方に関してはこういった形で対応するのが一番いいのかということをしかりと模索してきます。

(本部長) 参考資料の2ページのところにシステムの利用中には課題が見られるって書いてある。オンライン手続きの話だけどグラファーで利用前に本人確認が必要な操作が煩雑に感じる。Google アカウントか何かを使わなきゃいけない。

(事務局) 一応、なしでもできます。

(本部長) 本人確認が面倒くさいなっていうか難しいなと思う。犬の登録など役場にきたら職員たちがぱぱっとやってくれることがオンラインでも申請できる状態になっているけれど、その申請のところまでたどり着く前段のところが少々煩雑と思う。そこがもう少し本人確認も含めてより簡便になるといいと思う。本来どうかなと思う。マイナンバーカードの推進がある。推奨というか、いかに便利ですよと話をしている。本来義務じゃない。だからそこら辺がさ、義務だったら、それをどういうふうに活用するかっていうふうに明確に書けるが、義務化政策ってそのマイナンバーカードを活用した形の方がより書かない窓口に近い方になってくる。そこら辺の兼ね合いが非常に難しい。もう義務にしるよって思う。これだけいろんなことで推奨している。例えば保険証一つにしたってさ、いらぬ事務が増えるわけじゃない。確認書を送らなアカンっていう。だからなんだけど、その辺のところをさ、どういうふうに乗っけてやっていくか。グラファーを使ってもいいけれど、スマホでやるのだったら、マイナンバーカードを読み込みができて、それで本人確認ができるよっていう制度になったら、よりオンラインに近づいていくと思う。コンビニ交付する住民票はマイナンバーを使ってやる。本人ですよっていう認証のもとにやる。それ以上の本人確認はいらないと思う。

(事務局) そうですねグラファーについては県の方で導入しているもので、町としても経費として別途かかってくるわけじゃないというところで利用しているという部分がございます。確かに入力するときにGoogle アカウント連携するかということ

ころがあったりするので煩雑になっているという部分はあります。ちょっと昨今、県の方の状況とか、国の方の状況も含めて検討は必要だと思います。今のマイナンバーポータルとかでぴったりサービスとかっていう形もあったりするので国主導で今後どうなっていくのかっていうところも含めて検討していく必要があるのかなというふうに思っています。

(本部長) RPAの活用について、とりあえず目的としてこれだけのシステムを使いたいよってという話だけど、シナリオ数が令和7年度実績値19で目標値が30と書いてある。この数字の話ではなくて、職員の認知度はどうなのか。要は反復作業の部分について使った方が早いということか。

(事務局) 圧倒的にそうですね。

(本部長) そこら辺の認知度ってどうなのか。

(事務局) 正直その部分に関しては全職員がこんなシステムがあるっていうことを認識できてないとは思っております。RPAが使える部分について、デジタル推進グループの方で直接行ってシナリオ作るような状況です。なかなかその浸透というのが正直難しく、今後どうやって伸ばしていくかなというところで、正直我々が今、ちょっとずつですけれども、話をさせていただいて、何かあったらできることはないかというところで進めているところが現状です。

(本部長) 多分どっかの形でRPAの話をしないとなんだけど、望ましいのは、業務改善の中で、自分とこでこんなことやりたいけど、デジタル推進グループの方にこれRPA使えんのっていうふうに話が戻ってこない。今逆パターンだよ。

(事務局) そういう風にならなきゃいけないと思っています。BPRの取り組みという形を書かせていただいています。今年度に県の補助金を用いて業務フロー紙作成システムっていうのを導入予定です。基本的に各業務について、この作業にどれぐらい時間かかってこの作業をやって次これやって次これやるとこうなるよっていうのを多分今までだと、引き継ぎ書なり、マニュアルとかで書いたものを全庁統一したフォーマットで書くっていうことになるんですけどもそれをするによってですね。業務をAIに置き換えるよねとか、ここの部分をRPA使うともっと早くできるよってという提案をしてくれるようなシステムになっています。今後各課で使える部分が出てくると思います。今我々として思っているのはこの同システム導入にあたって国のDXの推進アドバイザーの制度を活用して伴走支援を行いたいと思っています。主に若い子を中心になるかなというふうには思っています。それぞれの課のメンバーに来てもらって、ワークフローを作るとともに、こういったことを改善できるなっていう部分について、

各課から出てきたメンバーと共にアドバイザーと一緒に考えて、使っていけるじゃないという提案をいただきながら業務改善していく予定でございます。

議題4 「業務改善を目的としたD X研修」のアンケート結果について

事務局より説明

質疑・意見

(本部員) 最後の設問がよくわからない。

(事務局) スキルアップという部分に関して、どのような講座をやって欲しいと照会する内容です。

議題5 豊山町生成A I システム利用ガイドライン第2版(案)について

事務局より説明

質疑・意見

(本部長) 今回の資料で、生成 AI システム利用ガイドラインも含めて、この資料に本資料の一部または全部が生成 AI を活用して作成しましたって書いてある。この生成 AI システム利用ガイド第2版もそうなのか。

(事務局) ガイドライン自体は総務省にあったものを参考しています。資料はガイドラインを AI に読み込ませて、その上で概要を作ってくれとすると表面の資料になります。第1版と第2版の変更点を上げてくれっていうと、2枚目の裏面の方が出てくるというイメージです。ガイドラインを一から作ることもできないことないとは思いますが。指示の仕方によってはできると思います。今回に関しては国が定めているルールに基づいて作っている形でございます。

(本部長) 概要のところに出てくる利用中にルールについて、使用環境の禁止っていうところで、例えば私用の PC で ChatGPT を使ってできたものを業務用に使っちゃ駄目ということか。コモンズ AI 以外で、例えば ChatGPT を使ってやりたいよっていった場合に申請してくれよという形だね。

(事務局) 今懸念している事項として、各課では A I 生成した画像を使って SNS 投稿していただいているっていうことがあります。コモンズ AI 自体は無料で利用できますが、月間に画像生成が 50 回しかできないので足りないと思っています。1 回指示を出ただけで出てくる画像より、何回かアプローチして変えていかないと駄目なので 50 回では足りないということです。そういった部分に関して

は情報を外に漏らすようなものでなければ、申請いただいて、許可を出していかなくちゃいけないかなと認識しております。

(本部員) 議会の議事録とあるが、他の会議の議事録も読めるのか

(事務局) 議会の議事録は専用のシステムがあり、そっちにあげているものに関しては全部読み込んでくれています。それ以外のものに関してはないので、プライベートナレッジと言って、例えば防災会議の議事録データをそのまま PDF として取り込んでもらうことができ、そこの中からどういった発言があったか調べてっていうと資料を検索してそこから回答を出すっていうことができます。

(本部員) ホームページにいろんな議事録があるが、それは読めるのか。

(事務局) インターネットを調べてきて回答は出してくれますが、インターネット検索した状態に出てくる情報なので、プライベートナレッジを使った方が正確な回答が得られます。

(本部員) 豊山町のホームページを全部プライベートナレッジに登録することはできるか

(事務局) プライベートナレッジが 100 ギガまでしかないので、そこは選択した上で使っていただきたいと思っています。基本的にインターネットから調べて回答を作ってくれていうことが ChatGPT も含めてできるようになっていますので、ホームページを調べてこういった情報を集めて、これ出してくれて言えばある程度調べてくれるとは思いますが。

(本部員) 例えば公共交通会議の議事録を入れると、それは町の全員がその情報を使えるのか。

(事務局) いろいろ階層があり、個人向け、共有向け、組織向けっていうのがあるので共有向けや組織向けのところに入れば、みんなが使えるようになります。しかし、ホームページ全部を入れると容量が大きくなりすぎるので、基本的に業務に使いたいということであれば、その際にその分を入れていただいて、最後にそれをまた消していただくとなります。

(本部員) リスクケースへの対応の中で、生成 AI が人種差別というか偏見や差別、社会的な問題を出力したっていうのがありますが、具体的に何が起こるかわからないですけど、黒人差別みたいなのができちゃったりするとその段階で報告するということですか。

(事務局) 報告を受けてそれってどういった形で指示を出したら、こうなったっていうことを共有した上で、要はそういった答えがあまりよろしくない回答になっちゃ

った場合はそれなりに我々も対応していかなくちゃいけない。要は同じような指示を出しちゃうとそうなるから気をつけてということになります。

(本部員) 古いけど、ちびくろさんぽとか、そういうことがあるのか。

(事務局) ちょっとそういった部分はまだ我々としても何とも言えないですけど、世界的な研究で ChatGPT が勝手に判断して採用試験で男性を優先的に採用するということがあった。必ずしも信じちゃいけない部分はあるので、報告が上がった段階でそういったものを各職員共有して、こういったことをするとこういった答えが出たから注意してねっていうところには啓発できるかなと思っています。

(本部員) ログは残るのか？

(事務局) ログは残ります。これが出たから、ログをくれっていう形で考えております。

(本部長) 今後の AI を使うにあたっては、それぞれの人にアカウントが振られるんですけどそのアカウントは研修を受けないともらえない。

(事務局) 研修会場でお渡しさせていただくようにしております。

(本部長) 研修を受けていただきながら、そこで疑問点もいろいろとお聞きいただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。この生成 AI システムの利用ガイドライン第 2 版（案）ですけども、この案の通り進めさせてもらってよろしいですか。

(全本部員) はい

議題 6 フロントヤード改革ワーキンググループの階層別編成について

事務局より説明

質疑・意見

(本部員) 書いてあることは何となくわかる。現状の課題で意思決定が遅れているみたいな。課長級と主任・主査級に分けると意思決定がなぜ早くなるか。現場的に階層複雑にすると意思決定手続きは時間がかかると思う。

(事務局) 今このワーキンググループ自体が 20 人ぐらいいる状態になっていて、正直言うと、会議の段階で話がなかなかうまく進まない。グループ長級の考えている部分と、課長級の考えている部分っているところに齟齬があり、なかなか発言ができないような状態になっています。まずは実務レベルの担当者でしっかりと話し合う環境にしたいということがまずメインになってきます。そこを分けることによって議論をきちんと深めていけるかなというふうに思っていま

す。尚且つしっかりと管理職級の方々が積極的に関わっていただきたいということで、昨年度の段階でワーキングに入っていますので、課長級の方々と会議にしていこうということで、しっかりと煮詰めて管理者レベルでの見方で見るとというような形でスピードアップが図れるというふうに認識しています。

(本部員) 一般的に階層を増やしたらスピードが落ちてくると思う。

(事務局) ちょっと人が多すぎたという部分もありますので、その部分を改善するものです。説明が回りくどくなっていたと思います。

(本部長) 元々ワーキンググループでは、最初、フロントヤード改革のためにそれぞれのグループの中からどなたか代表で出てきてくださいという話になっていた。結果としてなんだけど、課で課題共有がなかなかしづらい状況にあった。BPRを進める立場の課長さんたちがおいてかれるっていうような状況があったもんだからフロントヤード改革も含めて、課全体で取り組んでいただきたいっていうこともあって課長級もワーキンググループの中に入っていたっていう経過がある。いろんな会議もそうですけど、人数多くなると発言の機会がなかなか難しくなる。という部分もあって分けたと認識すればいいよね。他にご意見よろしいですか。

(全本部員) 発言なし

(本部長) 今後のワーキンググループについてはこの階層別の編成で進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。本日皆様方に、協議いただく内容については以上となっております。レジュメにはありませんが、その他で何かメンバーの方で発言がありましたら、せっかくの機会ですので発言していただければと思います。

(本部員) マネジメント層と実務推進層を別に分けてやるのはいいんですけど、何か対立関係ないようにそこは気をつけてほしい。

(事務局) 事務局としては私も含めて間に入ります。そこは我々がうまいこと潤滑になりたいと思っています。

(本部員) 生成AIがあまりに便利すぎて町民にこういうご案内で出すときに、このままいったら怖いと思う。ちゃんとチェックをするってこと。その視点を忘れずに進めてほしいなと。さっき理由がよくわからんと言ったのは、多分さっきの生成AIで作ったから、表面的なことを装ってスピードアップなんて書きちゃっている。綺麗で都合のいいことだけが残って肝心な問題が省かれている。多分AIで作ったからこうなったのだろうなと思いながら聞いていた。きちんと検証した方がいい。

(本部長) 次の研修でそのあたりも周知してほしい。

閉会

本部長より全議題終了の旨が述べられ、進行が事務局へ戻された。

事務局より、これをもって第1回D X推進本部会議を終了する旨が伝えられた。

以上